

## Title: 「ME YA THE WORLD」



ME YA THE WORLD &gt; December 2006 アーカイブ

06.12.23

## ■ 継続は力也。・・・りきやじゃないよ。

[Tweet](#)[Check](#)昨日、「半年間分」のビタミン剤を飲み終えた。

今から半年前は6月だけど、  
そうじゃない。

90日分のビタミン剤を2袋ずつ持って行ったんだ。

そして沖縄から飲んでいた。  
一袋目が終わったのは確かインドあたりだった。

事情があったり忘れてたり、日本に帰ってきたりでなかなか半年分は手ごわかった。

底なしに入ってるものだと思ってた。  
帰ってきてからは出来るだけ飲み続けた。

そして昨日、  
もちろん、まだ、あるものかと思って袋を振ってみるもの

出てこない。

中身を見れば、終了していた。

なんだか、ほっとしたような、残念なような。

初めてバックパックに詰めた時、何処に入れるか悩んだビタミン剤。  
旅の先々で、何処に入れたらベストなのか悩んだビタミン剤。  
沖縄で、ビルケースを買って結構最後までちゃんと入れてたビタミン剤。  
すみちゃんには、このメーカーはあんまり意味ないよって言われたビタミン剤。  
ビタミンCは、朝飲むとシミになるよ。とよことゆまちゃんに言われたビタミン剤。  
出しすぎて、床に転がって何個か失くして数が合わなくなったビタミン剤。  
一袋目が、なかなか無くならなくて4次元バックなんじゃないかって思ったビタミン剤。  
中国で、吉野家とマクシカ食べなかった時は頼りにしていたビタミン剤。

そんなビタミン剤を飲み終える頃なんて、想像も出来なかった。(まじで

そして、昨日、飲み終えたビタミン剤。

その日は初めて就職活動として面接をしてきた日でした。

時間は経ち、季節は巡り、状況が変わり、環境も変わる。

だけど私たちは少しずつしか変わらない。



宮澤 笑美  
1984年8月27日生ま  
れ☆沢山腹で沢山食  
べます！A型だけど  
片付けとかは上手く  
できないです。ハウ  
スダストアレルギー  
だけど埃とかよく見  
えないです。

## ● 最近のエントリー

- ☒ [継続は力也。・・・りきや  
じゃないよ。](#)  
(2006.12.23)
- ☒ [じゃ、パン](#)  
(2006.12.05)
- ☒ [何故かインド](#)  
(2006.12.05)

## ● アーカイブ

- ☒ [April 2009](#)
- ☒ [November 2008](#)
- ☒ [May 2007](#)
- ☒ [March 2007](#)
- ☒ [December 2006](#)
- ☒ [November 2006](#)
- ☒ [September 2006](#)
- ☒ [August 2006](#)
- ☒ [July 2006](#)
- ☒ [June 2006](#)
- ☒ [May 2006](#)
- ☒ [April 2006](#)
- ☒ [March 2006](#)

## ● 投稿カレンダー

## ● カテゴリー一覧

## ● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



良い意味でも悪い意味でも。

現在、フィールドワーカー期生は

卒業作品展と就職活動に、「フィールドワーカー期生」らしく  
精を出しております。

次のビタミン剤を買うべきか否か。

だけど結局、悩むところはいつだってそんな小さなことなのです。

カテゴリ：

post by 宮澤 美美 | 日時: 2006.12.23 | [パーマリンク](#) | [コメント \(24\)](#)

[ME YA THE WORLD](#) > December 2006 アーカイブ

06.12.05

じゃ、パン

[Tweet](#)

[Check](#)



先日、東京駅を撮影しに行った。

東京駅。

私のテーマには結構キーポイント☆

私が撮ってきた建築物の中には東京駅と同じ様式で造られたものが多い。  
それどころか、東京駅をモデルに造られたものもいくつかあった。

それはどういう意味なのか。  
もちろん、その時代背景そのものだ。  
日本統治時代に建てられたものだから。

簡単に言うとそういうこと。

だけど、それが現在にも残っている。  
現代の人たちは生活の一部として  
その国に当たり前のようにある建物として見ているのだろうか。

それが東京駅がモデルにされていると知っているのだろうか。  
知っているとしたら、どう思っているのだろうか。

そして、  
東京駅を見た  
どれくらい日本人が他の国にも、同じような建物があると知っているのだろうか。

知っていたからなんだ。  
と思うのだろうか。

最近、「麦穂を揺らす風」  
という映画を見た。

アイルランド人が自由を求めてイギリス軍に闘う話だった。

私はこういう話は好きではない。  
戦争の映画、暴力的な映画、考えさせられる映画、シリアスな映画  
全てにあてはまる。

THE日本女子の虜映画ベスト4。  
勝手に今つけた。

だけど、大して間違っていないと思う。

日本女子が好きな映画はディズニーや、ラブコメディや、ハリウッド映画だ！  
っていても過言ではないと思う。  
私もその一人。  
コアな映画はチャンスが無い限り滅多に見ない。

決して「麦穂を揺らす風」がコアなんかではないけれど。  
どうも、カンヌあたりでは有名ならしい。

そりゃあ、そうだ。  
と見終わった後思う。  
映像も、内容も濃く、完成されていた。  
作った人の「こういうものを作りたい！」という意思が相当出た。

私もし、この映画をアジアを回る前に見ていたら。  
見方はまったく違っていただろう。

私は終始、思ったこと。  
「あー。行く前じゃなくて良かったー。」  
本にそう思った。

生々しい、拷問の様子、拷問の場所、処刑場、人々の思い。

私がアジアの各国で見たきたものが凝縮されていたように感じた。

そのほとんどが、どこかの国と・・・日本。というのが事実。  
たまたま私が「日本」をテーマに歩き回ったからそうってしまったのかもしれないけれど、  
少なくとも私が見てきた分の場所の数だけあるのは確か。

もし、この映画に行く前に見ていたら  
私はきっと一人ですみずか、戦争祈念館にも博物館にも処刑場にも行けず、  
その国で一人で寝泊りなどできなかっただろう。

「無知」だったから廻れたのだろう。  
無知じゃなきゃ廻れないというわけではない。  
一つの映画で吸収した少しのそういった知識だけでは行けなかった。という意味。

だけど、あの映画は見て良かったと思う。

まず、体だけ、国やその場所にお邪魔して写真を撮ってきた私に  
鮮明なイメージを与えてくれた。それは、祈念館などで見る写真や記事とは  
全く違った体感をさせられた。重みと願いが増す。

そして、こんな映画がある。ということを確認した。

映画館は満席だった。観終わった人はどう思うのか。少しでも感情移入してほしい。

私は、高校時代、倫理の時間に「63」部隊の映画を見させられた。  
それは酷く鮮明に部隊が行った実戦の様子を描いていた。  
ほとんどの生徒は机に顔をつけていた。  
教室を出て行った人も少なくない。  
私もたいして見ることはできなかった。

その当時は、みんなで「なんていう授業をするんだ。」  
「まじ、意味わかんない。」など言っていた。

確かに、今考えても少しヘビィー過ぎる映像だった。  
しかし、私は、その後、どうしても気になって調べたり、関連の本を購入した。

どういうコトなのか。それがまったくわからなかった。そして知りたかった。  
何故あんなことをしたのか、本当にしたのか。  
だけど、結局、怖くて、本は途中でやめてしまった。  
ただ平和に暮らし、自分のことで精一杯で、戦争はダメ。ぐらいの頭の中に  
その映画の衝撃が強すぎてひたすら困惑した。

今回、私のテーマはそこから来ている部分もある。  
日本で暮らしては知ろうとはしない、知る機会のない「日本の昔」を知りたかった。  
日本なのに、ここに居るのに、知らないことがある。という不思議さ。

もう一つはやはり、外国人から見ての日本、日本人のイメージを知りたかったというもの。  
更にそれが、そういった国の人たちは私たちがこの国をどう思ってるのだろうと思った。現代の  
日本人のほとんどがのらりくらりと暮らしているのに・・・  
という思い。

話がずれたけれど、  
早く言えば、私は少し、倫理の先生に感謝をしている。  
乱暴でもいい、率直的でもいい。とにかく、とにかく、  
目の当たりにする。  
ということが、何かのきっかけになるんだと思う。

最近見た「穂を揺らす風」も違う国の話だけれど、  
好きじゃないジャンルだったけれど、  
訴えているものを見た。

私が考えていることはその作った人にとっては見当違いでも私は、私のためにその映画を吸収し  
た。

そして、他の人たちにもそうであってほしいと思った。  
忘れてしまうものではなくて、何かひっきり、新しく自分で何かを発見するものに。  
それが人に優しくなれることならいいなと思った。

私は、東京駅を撮影しに行った。  
撮った写真たちで、誰か何かわかってくれるだろうか、何か思ってくれるだろうか。  
自信はない。  
だけど私は振り歩いて良かったと思う。

東京駅は彼氏がバイクで連れて行ってくれた。  
バイクは自転車よりも早く、車よりも景色が広い。  
杉並から丸の内への道には沢山の町があった。  
暮らす人が居た。  
天気が良かった。日本はいいな。って単純に思った。

ベトナムで友達になったトー八さんに乗せてもらったバイクでは  
ただひたすら前を見ていた。景色なんか見る余裕がなかった。  
ただ、ひたすら降ったスクールの後の匂いは覚えてる。

カテゴリ：

post by 宮澤 美美 | 日時: 2006.12.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(427\)](#)

ME YA THE WORLD > December 2006 アーカイブ

## 何故かインド

[Tweet](#)

[Check](#)最近、ソフトバンクのC  
Mを見かけた。

ぶらっとびつが電話をしながらインドの街をぐりぬけてた。

「よく行ったな〜ぶらび。」

って思った。

以前なら、なんとも思わなかっただろうCMにそんな発言。  
別に悪い意味じゃない、良い意味でもないけれど

純粹にそう思った。

インドに居た時もそう思った。  
「ハリウッドスターとかもやはり、インドに来るのだろうか。・・・よく来るな〜。」と。

彼らにしたら、世界何カ国も旅しているうちの一カ国っていうだけで  
もっと凄い国や、凄い体験をしているかもしれないし、「インド」という国をどういふ風に見て  
いるかも  
わからないし、どういふ風に過ごしているかもわからない。

ただ、私にとっては  
「よく行ったな〜。」  
という場所だったことには変わりはない。

これがいわゆる「インド病」？！  
という感じで、時折、インドの体験が思い返される。

マザーハウスで出会った寝たきりの人たち  
朝の礼拝。  
雨の中歩いたコルカタの町、赤いカッパを来た外国人を見つめる目の強さ  
パラナシで死にそうになりながら、混雑とした駅の前で牛の足元に座り込んだこと。  
アグラで一人で寝込んでた時間。

どうしようもなく短編的な場面ばかりだ。

ガンガーで見た朝日や、タージマハールを見たこと、みんなで高級ホテルに行った時。  
他人が聞いたらこれがインドだ！！という体験は大して、フと思い出すことはない。

本当に、一瞬一瞬の場面だけを思い出す。

話はまったく変わるけれど、  
「博士の愛した数式」  
という本を読んだ。

二日で読みきってしまった。  
ベットにころがって本をそうやって読んでいると

チェンナイのサン・トメ聖堂で部屋を借りていた時と重なった。

だけど環境がまったく違うことがわかった。

現在は、自分の部屋で自分のものに囲まれて、  
外は東京の大通り。流れる車の音がする。

教会の部屋は  
窓の外は海だった。  
壁にはイエスのモニュメントとポスターがはってあって  
ファンがあって、ベッドが2つあった。そして机と椅子。それ以外の無駄なものは一切ない。  
少し心細くなる。  
そして停電もよくした。最終的には蛍光灯が切れてしまい、トイレのドアを開けて過ごした。

だけど私はひたすら本を読んだ。  
読みきった。

その時と、昨日読みきった時、読んでいる間の状況は全く違ったけれど  
読み終わった瞬間の気持ちは一緒だった。

「フウ・・・」

と一息ついて、とりとめもなくぼーっとする。  
別に読んだ本の意味を考えたりするわけではなく、  
一番印象にのこった文を思い出して思い描いたりしているのだろう。  
そのときはぼーっとしているから思い出せないけれど。

何が言いたいの？  
という感じだけど、

私も、今日、このブログを書き始めた時は全く違うことを書こうと思っていたのにまんまとインドのとりとめない話になってしまった。

私の写真の記録にインドは数少ない。  
10枚程度だ。

インドに対する思いは大谷などに比べたら無いに等しい。  
だけどこんなに色濃く思い出すところが  
インドマジックだろう。

バイトの後輩が3日から学校の用事でインドに行った。  
私とほぼ同じ都市を廻るらしい。  
私と全く違う経験をしてくるに違いない。だけど、同じことを思うかもしれない。

感想を楽しみにしているところだ。

カテゴリ：

post by 宮澤 笑美 | 日時: 2006.12.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(118\)](#)